

# 連峯堂 彩り 初夏号

RENOUDO'S COLLECTION SUMMER

HP



Instagram



OKUDA RENPOUDO  
 奥田連峯堂

TEL : 075-561-3655  
 FAX : 075-525-1148

営業時間 11:00 - 18:00  
 定休日 毎週水曜日

〒605-0073 京都市東山区祇園町北側244

<https://www.renpoudo.com>  
 ✉ [renpoudo@mth.biglobe.ne.jp](mailto:renpoudo@mth.biglobe.ne.jp)

1.

## 三色扁壺

河井 寛次郎

共箱

口径19.5cm×16.5cm 高さ20cm



Webでさらに多くの  
写真を公開中

日本の民藝運動を牽引した巨匠、河井寛次郎による三色扁壺です。

この作品の最大の見どころは、大胆に施された打掛の技法にあります。少しくリーム色がかった白地の素地に対し、緑・赤・黒の釉薬を迷いなく打ち掛けることで、躍動感あふれる色彩の配置を生み出しています。それは単なる装飾ではなく、寛次郎の呼吸がそのまま形になったような、生命感あふれる文様です。

力強くもどこか愛嬌のある造形が目を引きます。どっしりとした四方脚の構えと、力強く面が取られたフォルムは、重厚な魅力を放っています。

「寛次郎の宇宙」にも同形の作品が掲載されています。



2.

## 花扁壺

河井 寛次郎



Webでさらに多くの写真を公開中

共箱

昭和

口径7.5cm×13.5cm 胴径12cm×13cm 高さ17cm

民藝運動の中心人物として知られる陶芸家・河井寛次郎による花扁壺です。

柔らかな白釉を基調に、鉄絵と辰砂による伸びやかな草花文があしらわれ、素朴さの中にあたたかな詩情が漂います。前と後ろで非対称の形は、晩年に向かうにつれて強まった「形」への意識が色濃く反映されています。



反対側



3.

## 花鳥紋二彩耳付壺

河井 寛次郎



Webでさらに多くの  
写真を公開中

河井武一極箱

大正

口径9.8cm 胴径13cm 高さ10cm

民藝運動の中心的存在として知られる河井寛次郎が、そのキャリアの初期に制作した非常に貴重な耳付壺です。

本作は、赤褐色の地に貫入の入った白化粧土を施し、鮮やかな緑釉が大胆に掛けられています。胴部分には躍動感あふれる花と鳥が描かれており、後年の民藝スタイルへと昇華する前の、卓越した技巧と古典への深い造詣が感じられます。高台には「寛」の刻印があり、寛次郎の甥であり愛弟子でもあった河井武一による箱書きが添えられています。胴部分に一部釉薬の剥がれが見られます。



釉薬の剥がれ部分



「寛」印



4.

## 螺鈿大名縞中次

黒田 辰秋

共箱  
昭和  
人間国宝  
径7.2cm 高さ7cm

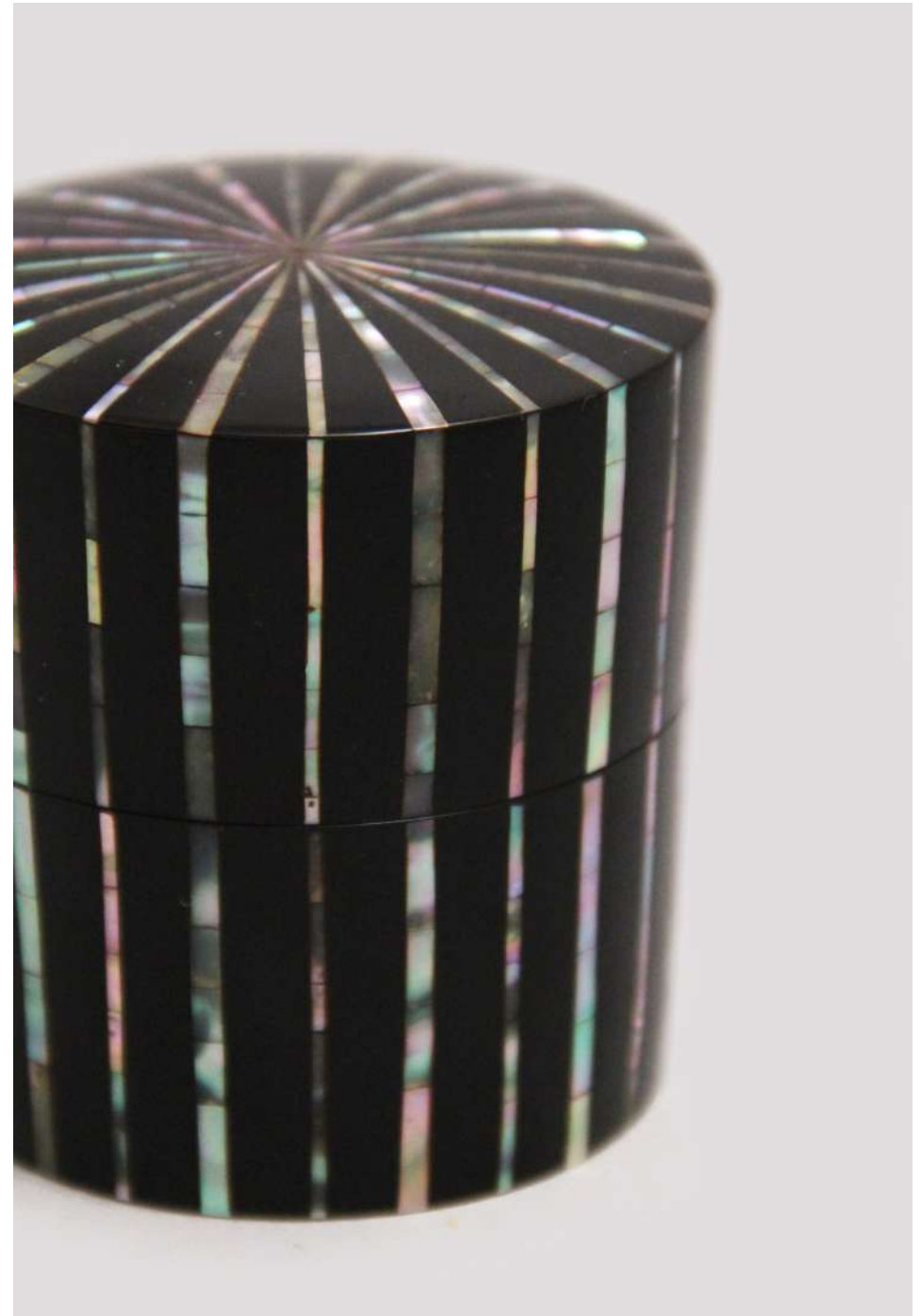
黒漆地に螺鈿で縞文様を配した、気品あふれる中次です。漆黒の面に整然と走る縞文様は、貝の持つ虹色の光を静かに浮かび上げさせ、端正でありながら豊かな表情を生み出しています。

天面には放射状に広がる螺鈿が施され、中心から外へと光が拡散するような構成が印象的です。直線の緊張感と、螺鈿特有の有機的な輝きが絶妙な均衡を保ち、静謐で格調高い佇まいを形づくっています。

類似作品が図録『生誕120年 人間国宝 黒田辰秋一木と漆と螺鈿の旅—(京都国立近代美術館)』に掲載されています。



Webでさらに多くの写真を公開中



5.

## 巳絵大鉢

船木 研兒



Webでさらに多くの  
写真を公開中

共箱

径 38cm 高さ 7.6cm

温かみのある黄金色の釉薬が器全体を包み、その中央に巳（蛇）が描かれた大鉢です。深みのある黒褐色で表現された蛇の文様には、黄色の細かな点描が散りばめられ、神秘的かつ生命力あふれる意匠となっています。口縁にも文様が巡り、全体に格調と風格が漂います。島根県出雲の陶芸家・船木研兒による力作で、民藝の精神を受け継ぎながらも独自の造形美を確立した逸品です。



6.

## 淡黄釉刷毛目蓋物

船木 研兒



Webでさらに多くの  
写真を公開中

共箱

径22.3cm 高さ40cm

島根県・布志名焼の伝統を受け継ぎつつ、独自のモダンな感性を加えた船木研兒による存在感あふれる作品です。

柔らかな淡黄釉をベースに、躍動感あふれる刷毛目の紋様が大胆に施されています。波打つようなリズム感のある刷毛目の動きは、手仕事ならではの力強さと温かみを同時に感じさせます。高さ40cmという大型のサイズながら、どこか優しげな色調が空間に自然に馴染み、圧倒的な存在感を放つ逸品です。



7.

## 古稀彩桔梗花瓶

六代 清水 六兵衛



Webでさらに多くの写真を公開中

七代六兵衛極箱

昭和

径13.5cm×13cm 高さ34cm

六代清水六兵衛が最晩年に辿り着いた境地「古稀彩（こきさい）」による桔梗花瓶です。朝靄のような柔らかな質感の中に、凛と咲く桔梗の姿が描かれています。古稀を過ぎてなお新たな技法を確立した六代の、止まることのない芸術への探究心が結実した、静謐かつ気品あふれる名品です。

本作には、清水六兵衛という偉大な名跡が次代へと引き継がれた、運命的な瞬間の記憶が刻まれています。

作品は六代の手によって完成されていましたが、自らの筆で箱書きを施す前に、昭和55年4月、東京での歴代名陶展の最中に六代は急逝されました。この未完の儀式を完遂させたのが、六代の急逝を受けて七代を襲名することとなった七代六兵衛でした。箱に記された「昭和五十五年夏」という文字は、師であり父であった六代を失った深い悲しみの中で、七代がその名跡と芸術を命懸けで守り抜くという決意を込めて認めたものです。



8.

## 白磁香炉

楠部 弥弍



Webでさらに多くの  
写真を公開中

共箱

昭和

径10.5cm 高さ10.5cm

文化勲章受章者であり、京都を拠点に近代陶芸の美を追求した巨匠・楠部弥弍による白磁の香炉です。

白磁の肌に、楠部作品の特徴である繊細な浮彫状のうねりの文様が施されています。一見シンプルでありながら、光の当たる角度によってその柔らかな造形が豊かな表情を見せ、見る者を惹きつけます。三つ足の安定感あるフォルムと、計算し尽くされた蓋のつまみに至るまで、用の美を超えた芸術性が宿っています。

胴部分に極小の黒点（焼成時に生じる鉄分）が見受けられますが、作品全体の端正な美しさを損なうものではなく、むしろ一点一点異なる手仕事の証とも言えるものです。





9.  
源内焼 三彩軍配形脚付鉢

江戸時代  
径22cm×27.5cm 高さ3.5cm



源内焼は江戸時代に平賀源内の指導によって源内の故郷 香川県志度（現さぬき市）で焼かれた三彩のやきものです。源内は博物学者として長崎に遊学した折にオランダからもたらされた新しい釉薬の技術を学びます。その技術を用いてふるさと讃岐・志度の産業を振興させるため、新しい三彩軟陶質のやきものを指導しました。「源内焼-平賀源内のまなざし（2003年）」図録に類似品が掲載されています。



Webでさらに多くの  
写真を公開中



10.  
源内焼 獅子置物

江戸 - 明治  
径11.5cm×18cm 高さ15cm



江戸時代に平賀源内が指導し、その後も香川県（讃岐）で受け継がれた「源内焼」の獅子置物です。本作は、お腹の部分に源内の号である「平賀鳩溪」の銘が記されており、源内焼の伝統と作風を忠実に継承した、幕末から明治頃の格調高い一品です。源内焼の代名詞とも言える鮮やかな緑釉と黄釉が美しく、力強く見開いた眼、威嚇するような開口部など、細部まで生命力に満ちた造形が特徴です。



Webでさらに多くの  
写真を公開中

耳の部分に修復（共直し）が見られます。本体と同じ緑釉を用いて、当時の風合いを損なわないよう丁寧に直されているため、鑑賞上の美しさを損なうことはありません。また、足の部分に小さなソゲが見られます。

11.

古伊万里 色絵鷺文変形皿



Webでさらに多くの  
写真を公開中

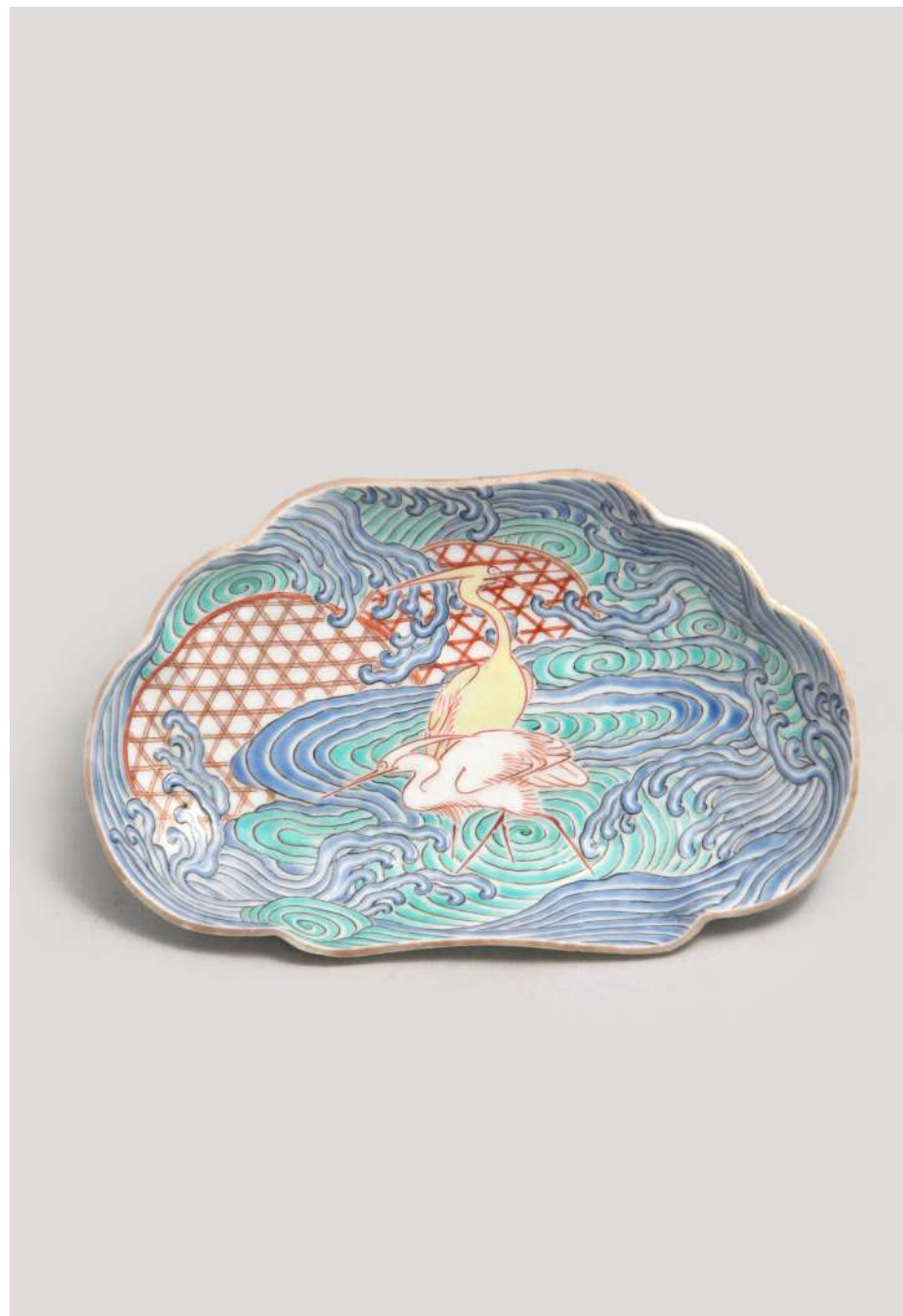
江戸時代

径16.5cm×10.5cm 高さ2.8cm

柔らかな輪郭をもつ変形の器形に、波間に立つ鷺の姿が大きく描かれています。

文様は赤絵、淡い緑、青を用いて軽やかに表現され、流麗な波文とともに清澄で気品ある世界観を作り出しています。鷺の姿は写実性と装飾性を兼ね備え、静けさの中に動きを感じさせる優れた図柄です。

高台に薄いニューが見られます。



12.

## 古伊万里 瑠璃釉金彩菊文香炉



Webでさらに多くの  
写真を公開中

江戸時代

径6.8cm 高さ6cm

深みのある美しい瑠璃釉に、贅沢な金彩が映える古伊万里の香炉です。

落ち着いた紺碧の地色に、繊細なタッチで菊文様が描かれています。菊は高貴さと長寿の象徴であり、古来より愛されてきたモチーフです。

蓋のつまみは、縁起の良い瓢箪の形をしています。瓢箪は「無病息災」や「子孫繁栄」を願う吉祥文様として知られ、遊び心と気品を兼ね備えています。

三つ足の安定感あるフォルムと、側面に描かれた文様が、空間に格調高い雰囲気をもたらします。



### 13.

#### 古染付 蓮池白鷺文七寸皿

中国 明時代末  
径21.5cm 高さ3cm

中国 明代末期、景德鎮の民窯で日本の茶人たちの注文により焼かれた古染付の七寸皿です。

中央には、たわわに葉を広げる蓮のなかに、一羽の白鷺が静かに佇む姿が描かれています。古染付ならではの、どこかユーモラスで伸びやかな筆致が、蓮池の静謐さと生命力を生き生きと伝えています。

縁周りには、この様式特有の虫喰いが景色として現れており、素朴ながらも深い味わいを醸し出しています。呉須の落ち着いた発色と、やや灰みがかかった柔らかな地肌のコントラストは、まさに用の美を体現した一品といえるでしょう。

『古染付 資料編』（京都書院刊）に類似品が収録されています。



14.

## 乾山写絵替銘々皿 10客組

白井 半七

共箱  
昭和  
径 約15~16cm 高さ 約2cm

九代白井半七の手による、色彩豊かで遊び心あふれる銘々皿  
10客セットです。

一枚一枚に異なる草花や情景が描かれています。梅、竹の文様をはじめ、秋草、流水など、華やかな金彩で表現されています。

少し素朴で温かみのある地肌に、発色の良い絵具が映え、食卓を一層華やかに彩ります。銘々皿として、また茶席の菓子皿として、特別なひとときを演出する逸品です。



Webでさらに多くの  
写真を公開中





15.

## 朝鮮唐津向付 10客組

中里 重利



Webでさらに多くの  
写真を公開中

共箱

昭和 - 平成

径15cm×11.5cm 高さ3cm

朝鮮唐津の見どころのひとつである、漆黒～飴色の鉄釉と、乳白色の藁灰釉が織りなす鮮やかな対比が見事に表現されています。二色の釉薬が溶け合い、境目に生まれる青白い変化は、まさに自然の景色を切り取ったような趣があります。

中里重利は、人間国宝 中里無庵の三男で、伝統ある陶芸家の家系です。熟練された轆轤技術で 古唐津の茶陶を基本にして洗練された完成度の高い作陶を展開し 唐津焼の重鎮として活躍しました。



16.

## 黒楽平茶碗

黒田 辰秋

共箱  
人間国宝  
径12.5cm 高さ9.8cm



Webでさらに多くの  
写真を公開中

木工芸の重要無形文化財保持者（人間国宝）であり、民藝運動の精神を深く体現した巨匠・黒田辰秋による黒楽平茶碗です。

力強い造形と、本業である漆芸に通じる「色の深み」が宿っています。見込みは、深い黒の中に、赤みがかかった色が絶妙に交じり合っています。

口縁に焼成中に生じた小さなハジケ（釉薬の一部が泡立ち、その結果生じた小さな孔（あな）の跡のこと）があります。これは火の中（窯の中）で生まれた茶碗の自然な景色です。もちろん、ご使用上の差し支えはございません。

高台には、「辰」の印が捺されています。

また、本作には辰秋の夫人・黒田フジによる識箱が付いています。



17.

## 赤楽茶碗

黒田 辰秋

共箱

人間国宝

径12.5cm 高さ9.8cm

木工芸の重要無形文化財保持者（人間国宝）であり、民藝運動の精神を深く体現した巨匠・黒田辰秋による赤楽茶碗です。

黒田辰秋の陶芸作品は、その力強い造形と、漆器を思わせる独特の色彩感覚が特徴です。本作も、深く温かみのある赤の中に、火変わりのような黒からグレーがかった色が絶妙なコントラストを生んでおり、掌に取めた時の重厚な存在感は辰秋ならではのものです。

高台には、「辰」の字の印、および「崑（き）」の字が彫り込まれています。



Webでさらに多くの写真を公開中



18.

## 山染付金彩鉢

近藤 悠三



Webでさらに多くの  
写真を公開中

共箱  
昭和  
人間国宝  
径21cm 高さ 9.7cm

鉢の内面には、悠三の代名詞とも言える力強く迷いのない筆致で、雄大な山岳が染付（藍色）で描かれています。一方で外側には全面に金彩が施されており、その繊細な刷毛目（または筋紋）が光を柔らかく反射し、内側の豪放な染付との鮮やかなコントラストを描き出しています。



19.

萩焼盃

11代 三輪 休雪



スマホで  
詳細を見る

共箱

昭和 - 平成

人間国宝

径 7cm 高さ 4.5cm



20.

種子島土盃

古山子 (小山 富士夫)

共箱

昭和

径6.5cm 高さ4.5cm



21.

黒唐津白筋文徳利

古山子 (小山 富士夫)



スマホで  
詳細を見る

共箱

昭和

口径5cm 胴径10.5cm

高さ14.5cm



22.

## 額「天地有情」

熊谷 守一

熊谷守一水墨淡彩画鑑定登録会 鑑定書

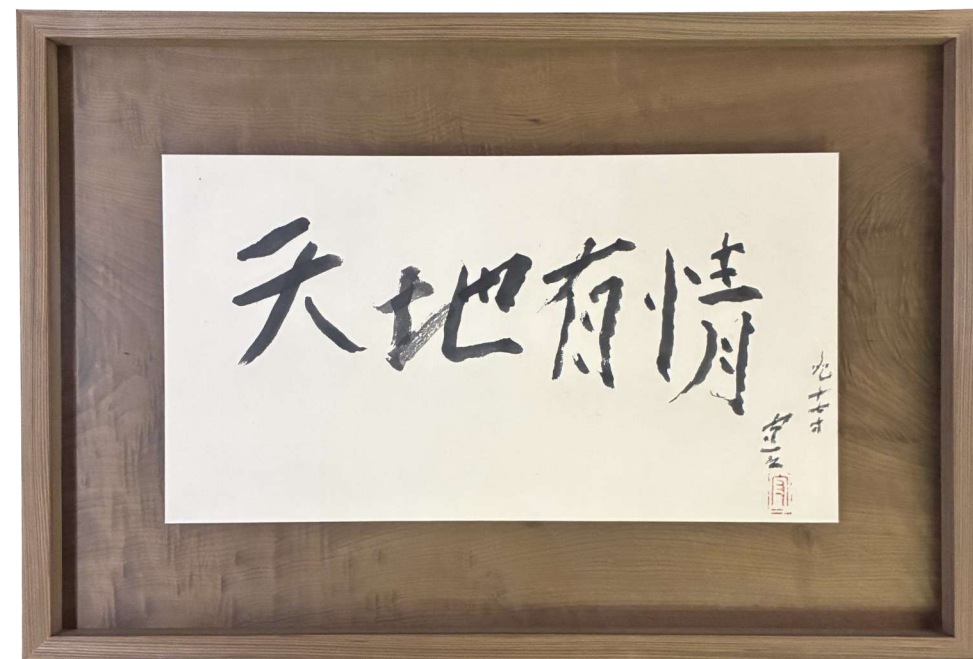
額：縦43.5cm 横64.5cm

「画壇の仙人」と称された洋画家・熊谷守一による直筆の書です。記された言葉は「天地有情（てんちうじょう）」。天と地、すなわちこの世界にあるすべてのものには命があり、情愛が宿っているという、守一の慈しみ深い世界観を象徴する言葉です。

本作には右下に「九十七才 守一」との署名があり、守一がその生涯を閉じる直前に揮毫された、極めて希少価値の高い最晩年の真筆です。作為のない、素朴で純粋な筆致からは、長年の画業の末に辿り着いた高い精神性が感じられます。

また、「熊谷守一水墨淡彩画鑑定登録会」による鑑定書が付属しております。モダンな木製額に収められており、和洋を問わずどのような空間にも馴染む名品です。

熊谷守一は、明治から昭和にかけ、97年の長い人生の中で、多くの人々に愛され、油彩、墨絵、書など多くの作品を残しています。



23.

## 額 三瓶子揃婦

棟方 志功

紙本肉筆

共シール、棟方巴里爾シール

額：縦53.5cm 横65cm

「三瓶子揃婦」の字の下に3つの瓶が肉筆で描かれています。

古来より無病息災や子孫繁栄の象徴として愛されてきた瓢箪形の瓶を三つ並べた、非常に縁起の良いモチーフです。

額装背面の保護紙（裏張り）に破れが見られますが、作品本体の保存状態に影響はございません。



24.

## 大悲願船図幅

棟方 志功



Webでさらに多くの写真を公開中

幅43.5cm 長さ127cm

世界のムナカタとして知られる板画家・棟方志功による肉筆画（倭画）の掛軸です。力強い筆致で描かれた「大悲願船」の文字と、生命力あふれる草花を活けた壺、そして瓢箪を模したような瑞々しい色調の器が配されています。

「大悲願船（だいひのがんせん）」とは、親鸞聖人が『教行信証』の中で説いた言葉です。阿弥陀仏の慈悲（本願）を、苦難の絶えない人生という海（難度海）を渡るための「大きな船」に例えたもので、この船に乗ることで誰もが確かな幸福（浄土）へと導かれるという、深い救いの教えが込められています。

本作の風帯は、お好みに合わせて付け外しが可能な取り外し式となっております。現代的な空間や、シンプルな表装を好まれる際にも柔軟に対応できる仕様です。



## 作家略歴 (五十音順)

### 河井 寛次郎

1890 (明治23) 年 - 1966 (昭和41) 年  
島根県生まれ。東京高等工業学校窯業科卒後、京都市陶磁器試験場に入所。京都市五条坂に窯を築き作陶を行う。東洋古陶磁の技法による作品を制作していたが、民藝運動に関わり、実用を意識した作品に取り組むようになる。文化勲章、人間国宝、芸術院会員への推薦を辞退。

### 6代 清水 六兵衛

1901 (明治34) 年 - 1980 (昭和55) 年  
5代六兵衛の長男。昭和20年家業の京都清水焼を継ぐ。号は禄晴。伝統的な京焼の技法に釉薬や焼成の新技法を加える。31年「玄窯叢花瓶」で芸術院賞。51年文化功労者。芸術院会員。

### 楠部 彌弍

1897 (明治30) 年 - 1984 (昭和59) 年  
染付、青磁、鈎窯、仁清風など、作風は多技多彩。彩埴と名付けた釉下彩磁は独自のものである。また京焼の伝統を踏まえた色絵は優美と言われる。帝展や日展などで活躍。昭和53年、文化勲章受章。

### 熊谷 守一

1880 (明治13) 年 - 1977 (昭和52) 年  
写実画から出発し、表現主義的な画風を挟み、やがて洋画の世界で「熊谷様式」ともいわれる独特な様式、極端なまでに単純化された形、それらを囲む輪郭線、平面的な画面の構成をもった抽象度の高い具象画スタイルを確立した。「二科展」に出品を続け「画壇の仙人」と呼ばれた。

### 黒田 辰秋

1904 (明治37) 年 - 1982 (昭和57) 年  
京都の塗師の家に生まれる。木工と漆工の一貫制作を志し、河井寛次郎や柳宗悦らの民藝運動に参加。祇園の鍵善良房など地元の支援を受けつつ独自の表現を追求した。志賀直哉や黒澤明ら文化人とも深く交流し、1966年には皇居新宮殿の調度品を制作。大作から茶器まで幅広く手掛け、1970年に木工芸の人間国宝に認定された。

### 小山 富士夫

1900(明治33)年 - 1975(昭和50)年  
中国陶磁器研究の大家・陶芸家。号：古山子。岡山県浅口郡玉島町（現・倉敷市玉島）出身。主に鎌倉市を拠点にして執筆、陶磁器研究では、中国北宋時代の名窯、定窯跡を発見し、世界的な陶磁学者として名声を確立。晩年に至るまで実証的東洋陶磁研究をして、古陶磁研究書など多く執筆寄稿。晩年には、岐阜県土岐市泉町に「花の木窯」を開き作陶。陶芸家として、茶器を始め多様な作品を造った。

### 近藤 悠三

1902 (明治35) 年 - 1985 (昭和60) 年  
富本憲吉の助手をつとめ、昭和3年帝展入選。染付磁器を中心に作陶。40年京都市立美大(現京都市立芸大)学長。52年染付で人間国宝に認定された。京都出身。京都市立陶磁器試験場付属伝習所卒。本名は雄三。

### 9代 白井 半七

1928 (昭和3) 年 - 1987 (昭和62) 年  
京都芸術大学卒業後、8代と同様に乾山写を得意とし、その他にも、独自の作風の茶陶も製している。昭和55年、兵庫県三田市大原に移窯。8代と共に料亭「吉兆」と親交を深めており、茶道具や会席の器など「吉兆好」の作品をよく残した。

### 中里 重利

1930 (昭和5) 年 - 2015 (平成27) 年  
佐賀県唐津市出身。人間国宝である12代中里太郎右衛門（無庵）の三男として生まれ、兄には13代中里太郎右衛門を持つ名門の家系です。古唐津の伝統を深く研究しながらも、現代的な感覚を取り入れたシャープで完成度の高い作風を確立。唐津焼の発展に大きく寄与しました。

### 船木 研兒

1927 (昭和2) 年 - 2015 (平成27年)  
江戸時代より170年の歴史を持つ布志名焼窯元 船木家に生まれる。濱田庄司に師事し、その後、日本民芸館賞、現代日本陶芸展やサロン・ド・プランタン奨賞を受賞する。昭和28年には、琉球政府の招聘により渡琉、作陶している。リーチの窯場にて研修。これを機に、スリップウェアと呼ばれる英国で17-18世紀頃に盛んに作られた化粧泥で模様をほどこした品物に魅せられ、この技法を本格的に取り入れる。日本に戻り、各展覧会に出品し受賞。

### 11代 三輪休雪

1910 (明治43) 年 - 2012 (平成24) 年  
山口県萩市出身。兄である10代休雪に師事し、後に三重県津市の千歳山窯にて川喜田半泥子から精神的な教えを受けました。約30年の下積み時代を経て、独自の表現を確立。伝統的な茶陶の概念を打ち破る「鬼萩」や「割高台」を世に送り出し、現代陶芸の重鎮として多大なる影響を与えました。

### 棟方 志功

1903 (明治36) 年 - 1975 (昭和50) 年  
20世紀の美術を代表する世界的巨匠の一人。日本の板画家。青森県出身。昭和17年以降、彼は版画を「板画」と称し、木版の特徴を生かした作品を一貫して作り続けた。